片貝新聞

発行所
片貝新聞社
〒947-0101
小千谷市片貝町10367-4
TEL 0258-84-3246
FAX 0258-84-2632
編集発行人 吉原芳郎
印刷所 吉原印刷㈱

題字 黒崎敬滌氏

JA片貝町
シンボルマーク
天の恵み地の恵み

市長は早期辞任すべし、と
リコール署名簿15,508を提出
だが、広井市長は辞める気なし

広井庄一市長の政治手法及び姿勢が、あまりにも独善的で、このままでは民主々義も危ういとの危機感からリコール運動に立ち上った「市政の正常化を求める会」（小池和明会長）は、順調に署名が集まったので、去る9月14日午前9時に、市役所で市選挙管理委員会の高塩茂善委員長に署名簿を提出した。しかし、広井市長は「辞める理由が全くない。ルールにのっとって解職投票に臨む」と語っているので、かなり長期化することが確実視されている。

求める会が集めた署名数は一五、五〇八名で、本請求に必要な三分の一の一一、二五〇名を大きく上回る結果となった。広井市長が昨年6月の市長選挙で獲得した一三、六二五票をも大きく上回る数字。

小池会長は「一日も早い市政の正常化を望む見地から、署名提出期間（18日まで）を残して提出した。市長とそのとりまきの人達は〝市民の声を大切に〟と常々口にして来たのであるから、一万五千余名という大勢の市民の声を謙虚に受け止め、早期に辞任し、市民の審判を仰ぐことが責任ある政治家の常道。市長は〝リコールされる覚えは全くない〟と発言しているが、組織を無視し、議会を否定し、公権力を振いながら〝私に覚えがない〟と本気で考えているなら、それこそ恐ろしいこと」と記者団に語った。「リコール運動で市民に混乱を与えたのでは」の質問に対しては、「混乱を生じさせたことは市民にお詫びしたい。しかし、広井市政がこのまま続くとあらば、混乱はますます増幅する。多少の痛みは伴うが、今、改革が必要」と答えた。

求める会は、①条例で定めのある助役、収入役の選任を未だ怠っているのは、行政組織の軽視。助役を空席にしておくことによって、市長自身に権限が集中する結果、公正であるべき指名審査委員会も形骸化している。市民に対し選任しない理由も明らかにしていない。②市長は議会の議決した予算を執行する義務があるにも拘らず、自校給食を行ないたいという自分の立場に固執し、議会の議決を無視して執行しなかった。これは議会制民主々義の否定。③市長の人事権がないのに、㈶小千谷市産業開発センター理事の人事まで介入した。権限の濫用である。④法律を遵守すべき立場の市長が、司直の判断を待たず、全国的に例を見ない行政処分を行なったことは、許されることではない。同一事案に対して、新潟地方検察庁は不起訴処分を行なった。これに対して政治的責任を明確にすべきであるのに明確にしていない。⑤議会で市長辞職勧告決議が可決された。法的拘束力はないとしても、重大な政治責任がある。

以上の五点を主な理由にあげながら、このままでは民主々義のルールを大きく逸脱してしまうとして、8月12日に市選管に届けを出して、14日から300名を超す受任者が署名集めを始めた。受任者は漸次増員して最終的には395名に。内訳は、いわれなき指名停止処分を受け苦しめられた建設業者従業員等約100名、市議13名の支持者約130名、そしてリコールに賛同して駆けつけた100数十名。

市長は「リコールの理由が全くない。あくまでも辞める気はない」と強気の発言を繰り返していることから、本請求がなり解職投票は12月上旬頃、解職賛成が過半数を上回れば、市長選挙は来年2月頃の予定。

主張

反対運動のもつ意味

九月定例市議会も終わり、市政は市長の解職請求に動いている。

今定例市会は、選管で解職請求署名の審査が行なわれていることもあって広井市長の政治姿勢や行政のあり方についての一般質問が多かった。なかでも興味深かったのは住民運動と市長の関わりに対する質問であった。

それは岩沢地区の産業廃棄物建設反対と国立西小千谷病院統合反対・神経筋難病の専門病院として拡充を図る運動の二つである。前者はすでに県から許可が下り操業を開始している。後者については市長も述べているように「先日私も一緒に上京し厚生省に陳情したが決して先の明るいものではなかった」ということになると、その運動方法もおのずと違ってくるのではないか。

責任ある行政の長として岩沢の場合は、ただ毎日産業廃棄物が運搬されてくるのを監視するだけでなく、ダイオキシンやその他の公害物に対し、市独自の検査方法を採用し場合によっては当事者と折衝するなど地域住民に不安を与えないような施策を講ずべきであり、問題性からみても小千谷市といった一市町村単位では解決できない問題で、県政はもとより国政の場で討論しなければならない重大な環境問題でもある。

西小千谷病院にしても、一部住民や反対運動推進者から素晴らしい市長と賞賛された「西小千谷病院は、国も難病対策として一県一病院の計画もあるので、是非指定される」よう頑張りたい」という大臣まがいの答弁だが、その意気込みを買うにしても、その実青写真や運動母体、時間的制約、地域的という問題点等何も計画があるわけでなく、どうも思いつきでという感が拭えないのは残念である。すでに三万四千名の署名を添え国会請願や厚生省陳情など行ない、さらに県議会でも意見書をあげるなど、あらゆる運動を展開して今日にいたっているが、どうも明るい方向が見えないばかりか、逆に厚生省は平成十二年に一定の方向を出す、と明言さえしていることを思うと、運動の転換を考える時期にきているのかもしれない。

もちろん反対者や団体があくまでも反対運動を続けるのは、その目的からして至極当然としても、確固たる見通しがあれば別として、先の全く見えない問題にたいして戦術の転換することもなく市長が一緒になってあくまでも反対していくのは如何なものかという意見があるのも一理あるような気がする。

もしも岩沢の産廃施設が半永久的に稼働したり西小千谷病院が何ら話し合いのないまま、一方的に統合や廃止されたら誰がどんな形でその責任を取るのか。

首長は、いうまでもなく四万三千名の全市民の福祉向上を図るべく、何がよりベターか方向付けをしていく責任と同時にそのタイミングを外さないよう強く要望したい。

ただ残念なのはこれら運動に対し批判めいたことを赦さない一部の人や団体があることで、お互いに反省すべきである。

市政に対する一般質問
片貝の3市議も熱弁

市政に対する一般質問が9月24日市役所4階の議場で開催された。8人の市議が登壇したが、片貝勢は質問を行なうことの出来ない関広一議長を除き、3名全員が質問を行なった。要旨は次のとおり。

【小林光紀市議】

㈠市は人口増対策に諸施策を試みているが、残念ながら効果がない。ならば交流人口を図るべきで、中でも観光による交流人口増に力を入れるべきである。先ごろ島根県の西郷町で第一回闘牛サミットが行なわれたが、何故二万人に満たない西郷町での開催であり、当市での開催でなかったのか。今年の片貝まつりは晴天に恵まれ17万人の人出で賑わい、経済効率も大いにあった。僅か3,100人の人口のまちが2日間で17万人も集めることはすごいこと。何故、一年間を通しての観光に結びつけないのか。私は以前から花火会館建設を主張しているが、13市町村で組織する長岡地域行政組合が発行した基本構想の冊子には、長岡市に花火関連の施設を作る計画案が載っており、当市のところでは何も触れていない。長岡市に先に作られてしまえば、片貝は二番煎じとなってしまう。牛闘サミットもそうであるが、当市は後手後手となる。

㈡デイホームかたかいの県からの3カ年継続の補助金が今年度で終了となる。来年度はどうなるのか。北部の福祉センターは、永寿荘とスポーツセンターをドッキングしたような施設を作るべきである。

▽広井市長

㈠闘牛サミットは、来年西郷町にドーム闘牛場が完成することから、第二回も西郷町で開催することになっている。第三回目は決まっていない。片貝まつりは経済的波及も大きく喜んでいる。市としても駐車場対策に力を入れているが、片貝バイパスの早期開通を働きかけると共に、今後も片貝煙火協会まつり実行委員会など地元と対応を協議して行きたい。

㈡デイホームかたかいについては前向きに検討して行く。北部福祉センターは、平成12年4月供用開始の南部地域福祉センターの利用状況等を見てから検討して行きたい。

【吉原正幸市議】

㈠市長は中学校の給食問題で、自校方式を求める8,000名の署名の意味は重い、との見解を述べていた。しかし、今年に入ってから市民だけで一万七千名もの署名を添えての嘆願書の受け取りは拒否した。署名には重い、軽いがあるのであろうか。市長は常々〝市民の声が届く市政〟を口にしているが、これこそ公約を破ったことになるのではないか。リコールはたんたんと進められ、一万五千名以上の署名が集まり、市選挙管理委員会に届けられた。市長は〝いわれなきリコール〟〝辞める理由はない〟と発言しているが、何故一万五千名もの署名が集まったのか。一万五千名の声は市長には届かないのか。市長は罪刑法定主義を無視して行政処分を行ない、市長の前では法律も無力ということか。その強気が正義感からくるものであればまだしも、市長の場合そうではない。それが証拠には、リコールが表面化すると指名停止処分を突然解除したり、給食問題も突然議員と話し合うようになった。いずれもリコールを配慮したものであり、これこそ支持者を裏切ったことになるとは思わないのか。リコールは市長の政治姿勢を問うものと思わないのか。進退を問う。

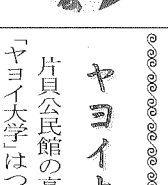
▽広井市長

㈠住民の署名運動は、目的が万人に受け入れられるようなら軽視してはならないが、リコール運動は万人から認められる理由などひとつもない。リコールは唐突で、その理由も全くリコールをする理由ではない。ルールに沿って市民の判断を仰ぎたい。まだ、市選管で審査した結果が出ていないので、リコールに対するコメントは出来ない。

【安達稔市議】

㈠給食の署名8,000名を重く受け止め、一万九千名の嘆願については受け取りそのものを拒否した。条件が整っていれば署名の意味は重い。リコールの署名は内容が整理され整っている。〝市民の声が届く市政〟の観点からどのように思っているか。

㈡助役、収入役が未だに不在であり、当市のみ特異な存在となっている。危機管理体制という観点からも重大な問題である。市長就任から14カ月になろうとしているが、地方自治法が全く遵守されていない。地方自治法についての市長の見解を問う。先般各戸に配布された市長派のチラシに、市長の言葉として「市長辞任直後から助役、収入役の人選に取りかかったが、あの人達は〝どうせ一年後にはリコールをやるのだから、誰を送ってもハネつけてしまえ〟と同意する気配が全くなかったのです。今も変わっていないようです」とあるが、市長の談話なのかどうか。



▽広井市長

㈠吉原市会議員の質問に答えたとうりであるので省略する。

㈡諸般の事情により出来ないでいるが、なるべく早く議会に提案したいと思っている。二役不在によって、市民からの苦情は来ていないが、不在でいいわけではないので、早く選任したい。私は聞かれる毎に選任出来ないでいる理由を「諸般の事情」と答えている。それを受け取る側でどう捉えるかについては関知していない。総務課長に助役代行、会計課長に収入役職務代理を務めてもらっている。

かたかい春秋

広井市長のリコールへ向け、一万五千名を超える署名簿が市選挙管理委員会に提出された。普通の人であれば、これだけの人数の署名簿提出であるので、辞職して市民に信を問うべきと思うのであるが、広井市長は「リコールされる覚えは全くない。辞める理由がない。ルールにのっとって、市民の判断を問う」と解職請求まで持ち込む考えであることを明らかにした。▼〝広井庄一〟という人物の気の強さは、前々から聞いてはいたが、ここまでとは思わなかった。25日の定例市議会においても、恫喝的発言で言論の封殺を図るかのようなやりとりがあったと聞く。ポスター掲示問題で石坂和男市議を訴えたり、七名の市議と共に建設業協会長を談合罪で訴えたり、何かあるとすぐ訴える手段に出る。首長としてふさわしいかどうか疑問を抱き、一万五千名もの人が署名したのではあるまいか。▼ところで、市議会の一般質問で佐藤勝太郎市議は「リコール運動は、反市長派の市議と建設業者が起こしたもので、市民運動ではない」旨の発言をした。市長派の陣営は盛んにそれを宣伝するが、実におかしな主張ではないか。建設業者であろうと、市民権を有していれば市民に間違いない。ましてや不当な扱いを受けたのだから、リコールの中枢にいたとしても何ら不自然ではない。▼市議は市民の代表の立場にある。より身近で市長と接し、このままでは民主々義が危ういとの判断から立ち上ったと認識している。だからこそ、一万五千名もの署名が集まったのである。佐藤市議や市長派の言い分の方がおかしいのではないか。だからこそ、市選管は粛々と法にのっとって作業を進めているのである。

町民運動会

第52回片貝町民運動会（＝スポーツ・フェスティバル）は、10月11日午前8時半から片貝中学校グラウンドで開催する。

老人会

片貝町協議会では10月4日㈰午前10時から、片貝小学校南運動場で片貝町敬老会を開催する。午前11時より片貝保育園、片貝小学校、ヤヨイ大学民謡部などの余興を行なう。今年の該当者は（9月18日現在）昨年より32名増の937名で、内90才以上が30名、米寿が17名、喜寿が42名と年々増えている。

読みきかせ

小学校低学年を主な対象に、絵本や紙芝居の読みきかせのボランティア実施の「読みきかせ会」の10月の活動予定は、2日㈮午後3時～、10日㈯午前10時～、16日㈮午後3時～の、三回いずれも片貝ふるさと会館で開催。

集めま～す リサイクル

リサイクルかたかいは、4日㈰午前9時から9時30分まで、恒例のリサイクル活動を片貝支所前で実施する。ボロ布、発砲スチロール、ダンボールなど。

ヤヨイ大学

片貝公民館の高齢者学級「ヤヨイ大学」はつぎの日程。

▽10月8日㈭午後1時30分＝片貝公民館で開講式・「中国気功」の講座

▽10月16日㈮午前8時20分＝市外研修旅行「新潟みどりの物語会場」

▽11月6日㈮午後1時30分＝片貝スポーツセンターで「若返り健康体操」

▽11月13日㈮午後1時＝片貝公民館で押し花教室

▽2月26日㈮午後1時30分＝片貝公民館で「ゴミの仕分けとダイオキシン」の講座

▽3月5日㈮午後1時30分＝片貝公民館で「健康づくりと食生活」の講座

▽3月12日㈮午前10時＝永寿荘で開講式・懇親会

詳しくは片貝公民館へ。

燃えた！騒いだ！楽しんだ！

オラが片貝まつり盛況に終わる

でも4尺玉は連夜の失敗でがっかり

浅原神社秋季大祭の片貝まつりが終わった。珍しく9月9、10の両日共晴天に恵まれ、そのせいか人出がドッと押し寄せ、道路は昨年よりかなり混雑していた。特に9日は車が大渋滞、午後10時から片貝町の道路は車であふれかえり、小千谷警察署がひきあげたのは深夜零時半過ぎだったとのこと。

話題の四尺玉は、こともあろうに両日共失敗に終わり、遠路はるばる来た人達をがっかりさせた。二発揚げるようになってから、二発共失敗したのは初めてのこと。関係者の話しによると、花火に火がちょうどよく入らなかったため、打揚げられたものの開花しなかったらしい。

それでも片貝中学校の同級会が、20歳、33歳、42歳、50歳、60歳、70歳の人生の節目毎に奉納する花火は、スターマインに尺玉が組み込まれており「おぢやまつりの市民総参加花火より素晴らしい」との声があちこちであがっていた。

桟敷席周辺で混雑していたためか、転んでケガをして救急車で運ばれた人が2人、腹痛が1人、まつりの雰囲気につかり過ぎたためか、急性アルコール中毒が3人いた。

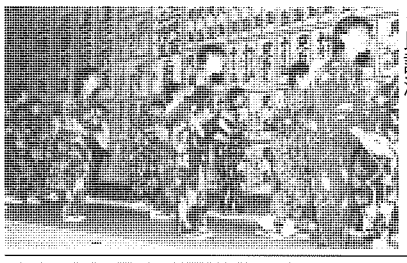
その他伝統の筒引き、玉送り、奉納相撲などが賑やかに行なわれた。

▶力強くバレン披露

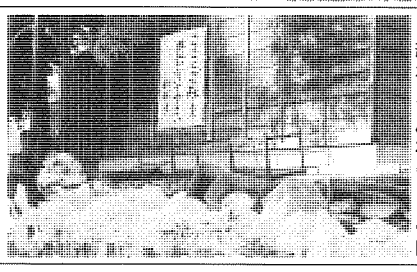
◀片貝伝統芸能保存会

◀伝統の筒引き

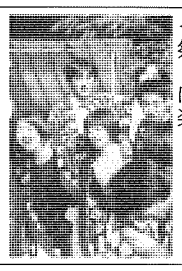
◀ご存知ラッパ呑み呑み過ぎに!!



◀民謡流し



◀貼り紙もなんのその終わってみればゴミの山



◀祭りは楽し

◀揚がった～真昼の三尺

正調木遣などの録音テープ販売

伝統芸能保存会が

片貝伝統芸能保存会（山口益宏会長）は、片貝まつりに合わせてカセットテープ「片貝の木遣としゃぎり」を百本制作、まつり物産展で一本1,000円で販売した。A面には「道中木遣」「奉納木遣」「しゃぎりと木遣」など4曲とナレーション、B面には「おけさ」「うちきり」「さまよ」など5曲を収録している。希望者は片貝支所へ。

佐平治祭り盛況

結束で遺徳を偲ぶ

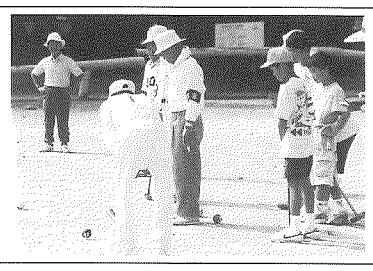
昭和61年8月に制定され今年で第13回を迎えた佐平治祭り（感謝祭）が去る8月25日津南町の結束地区（旧秋山郷の結束村）で開催された。片貝町からは吉井陽協議会々長、関広一市議会議長、吉原正幸市議会議員を初め15名が現地を訪れて佐平治祭りに参加した。

当日は佐藤佐平治翁の碑の前で、午後1時から神事が行なわれ、地元から津南町々長（代理）・町会議員等約40名が式典に参列、神事に引き続き午後2時から秋山郷結束温泉「かたくりの宿」で懇親会が開催され、席上乾杯の音頭に立った関議長は「この秋佐藤邸が新しく生まれ変わりますので皆さん方も是非一度来町を」とPR。懇親会も終わりに近づくと、片貝からの参加者全員が、山口伝統芸能保存会々長の音頭で片貝の正調木遣りを披露すれば、地元からは山田町議独演による「秋山おけさ」のお返しと今年は昨年以上の盛り上がりであった。

今年も又、浅原神社秋季大祭に結束地区の人達十数名が片貝町を訪れ、夜空に咲く豪華な花火を楽しんだ。

老人と子供達

ゲートボールで交流



平成10年度第15回片貝老人クラブ・子供会交流ゲートボール大会（主催―片貝公民館・主管―片貝町ゲートボール協会）が去る8月22日(土)午前8時30分から、片貝小学校グランドで開催された。当日は町内単位8チーム（1チーム、老人2・小学生3・補欠3）が参加し、2ツのコートで予選リーグが行われ、第1コート―町裏チーム・第四ヤヨイ会子供会A、第2コート―寺町チーム・第四ヤヨイ会子供会Bの4チームで決勝トーナメントが行われ、寺町チームが優勝した。成績は次のとおり。

①寺町チーム（中野卓、小林計助、小川政利―以上老人クラブ、黒崎雄太、小林孝広、小林佑介、安達雄一、小林矩子―以上小学生）、②第四ヤヨイ会子供会B、③町裏チーム、④第四ヤヨイ会子供会A

ジャンボかぼちゃズラリ

でっかいのが穫れました

池津町内会（会長堀井一位）では地域おこし、活性化運動の一環として、毎年池津の鎮守、熊野神社の秋祭りに合わせて行っている第10回池津ジャンボかぼちゃコンテストを8月30日(日)開催した。

当日は朝からの悪天候にもかかわらず、六十四世帯から二百二十七個（町外者から七個）の出品のかぼちゃが県道脇の歩道、約百二十メートルの間に展示された。今年最大重量は総合優勝した山田さんの百キロ、出品総重量は五、六百八十二キロにも達した。（昨年は五、〇四十五キロ）

班対抗の団体戦では、総重量が一、五百十七キロの3班が優勝。個人戦では、今年町外者（鴻巣町の山賀ツヤ）の入賞があった。個人総合優勝の山田さんは「今回初めての優勝うれしいです。今年は天候不順で例年にくらべて、全体こぶりです。来年はもっと大きな物を」と語る。またこの日池津町では午前はジャンボかぼちゃ大会、午後からは熊野神社の神事、各班ごとの親睦会が行われた。コンテスト個人戦の結果は次のとおり。

▽総合優勝―山田たかひろ
▽重量賞―①吉田ふみよ、②本田徹、③山賀ツヤ
▽美形賞―①神林荘一、②阿部林四郎、③堀井仁
▽変形賞―①神林義一、②安部伊の助、③神林恒
▽特別賞―神林利夫

（写真―総合優勝の山田さんとそのかぼちゃ）

片貝ヒューマンウオッチング

堀井さんジャンボかぼちゃを語る

すっかり名物となったジャンボかぼちゃ大会について、池津町内会長の堀井一位氏に語ってもらった。

堀井氏は農業、66歳、奥さんと長男、長女との4人暮らし。JA片貝町理事8期目、市農業委員会委員5期目と要職をこなしているが、町内会長は今年10年目となる。

ジャンボかぼちゃ大会も今年10回目を数えたので、堀井氏が町内会長になってから始めたイベントということになる。

その当時を「以前は町内の融和、活性化などを考えてソフトボール大会、バレーボール大会、雪上運動会など様々なことを企画したが、いずれも長続きしない。町内会長になった時、老若男女問わず町内全員が参加出来るイベントはないか、と役員と色々話し合った結果、ジャンボ大会をやったらどうか、ということになった」と振り返る。

始めるにあたり、色々知恵を絞った。まず期日。全員が参加出来る日、を第一に考え、氏神様である熊野神社祭礼の8月最終日曜日に行なうことを決めた。この日であれば子供達はまだ夏休み、大人達も稲刈り前で大丈夫ということで、これが功を奏した。また、色々な賞を作り、原則として一世帯に賞はひとつ、入賞率を良くすることもグッドアイディアであった。〝ジャンボかぼちゃ〟の名称のとおり、総合優勝の第一義は重さであるが、その他〝重量賞〟、小さくても望みのある〝美形賞〟などを設けた。

大会の日の朝は、それぞれが自慢のかぼちゃを持ち寄り、計量する場所は和気アイアイ。かぼちゃに子供や孫の名前を書いて出品する家も多く、まさに家族的。さらに各班対抗の団体戦を設けたことも幸いした。各班毎に作り方の情報交換をしたり、班の協力意識を高めることにつながった。

大会会場を当初は公園でやっていたが、せっかくだから町内会以外の人にも見てもらおう、との声で会場を現在の県道沿いに移した。道行くドライバーが車を止めて眺める姿は珍しくなく、わざわざ小千谷市街地から見に来る人もいる程有名になった。

大会後のかぼちゃにも人気が集まる。新潟や長岡のデパートにひき取られて行くもの、各種イベント会社にもらわれていくものも多い。今年は長岡ニューオータニ、長岡中央卸市場に十数個が引き取られて行った。残りは家畜のエサに使われたりしている。

大会当日は晴天が多く、今年初めて雨になった。10年を振り返り「町内の皆さんが賛同してくれ、協力してくれたので、和気アイアイの雰囲気で10年も続いた。心から感謝している。来年は役員改選の年であるが、新役員に継続をお願いすることにしている」としみじみと語っていた。

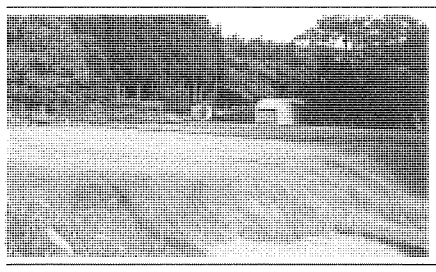
お知らせ

ゴルフ練習場無料開放

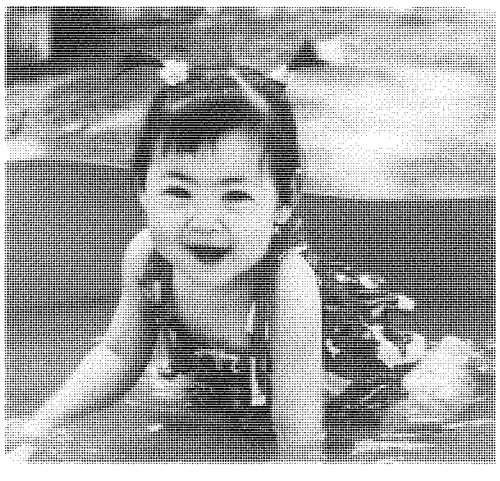
片貝製作所から

ゴルフを楽しんでおられる方や、これから始めようと考えておられる方に耳よりなお話。

片貝製作所の南側と北側に、いつでも誰でも練習できるすばらしい施設があり、しかも無料でボールも用意されております。南側は、巾10M、長さ20M、高さ4Mに渡りネットがかけられ、ドライバー、アイアンの練習ができます。北側は、小千谷カントリーのグリーンキーパーさんにより、手入されたグリーンとバンカーがあり、アプローチ、バンカーショット、パターなど、初心者から上級者まで巾広く利用できます。又、両施設共にナイター設備があり夜間利用も可能です。利用の条件はただ一つで後片付けをきちんと行い、次の人に迷惑をかけない事です。尚、冬期間は閉鎖します。



ハローベイビー



○安達美和（みわ）ちゃん（四之町）
パパ　和志さん（31才）
ママ　みち子さん（24才）
第1子長女
平成9年7月6日生
現在の体重8kg身長75cm
Q名前の由来
A心がきれいで美しく、おだやかであるように。
Qお子さんの様子
A見ている方がつかれるくらい、一日中走り回っています。
Qどんな子に育って欲しいですか
A人にすかれて、いつでもまわりには、友達がいる子。